IV 計画の実現に向けて

1 計画の分かりやすい発信

今後の津山市の教育の目指すべき方向や具体的な施策等を、学校・家庭・地域がしっかりと共有できるよう、 SNS等による情報発信も工夫しながら、市民に分かりやすい丁寧な説明と情報の提供に努めます。

2 客観的な根拠を重視した教育施策の推進

数値化できるデータ・調査結果のみならず、数値化が難しい側面(児童生徒等の課題、保護者・地域の意 向等)について、可能な限り情報を収集・分析することで、客観的根拠に基づいた教育政策に取り組みます。

3 地域住民・ボランティア・NPO・企業等との協働

多様な主体と行政が、力を合わせ活動することにより、社会全体で教育に取り組む仕組みづくりを進めます。 また、今後のICT化への対応のため、東京学芸大学やNTT西日本等との実証事業を推進します。

4 関係部局・関係機関等との連携・協力

総合教育会議等の場で市長と協議し、円滑かつ重点的に実施されるよう必要な予算確保に努めます。 また、市の関係部局や津山警察署、津山児童相談所はもとより、国、県、周辺市町村と相互に連携・協力 を図りながら、組織横断的な取組を展開します。

5 岡山県等との連携と学校の主体的な運営への支援

各学校での教育活動が充実するよう、県の助言等も受けながら、適切な指導・助言や情報提供を行い、社 会に開かれた特色ある主体的な学校運営を支援していきます。

6 進捗状況の点検と計画の見直し

毎年度、計画の着実な実施に努めるとともに、事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、次 年度以降の施策の改善等に生かすことで、計画内容の適時・適切な見直しに努めます。



評価結果を次年度の重点施策に反映 事業の改善・見直し

事業の実施 自己点検の実施

Check Shirt

外部評価委員による点検・評価 施策の見直しの必要性等の提言 保護者等の意見

評価結果の公表

- ●議会への報告
- ●ホームページへの掲載 等

【概要版】津山市教育振興基本計画(第3期) (令和4(2022)年度~令和7(2025)年度)

~自立し 心豊かにたくましく 「つなぐ力」を育む~

I 第3期津山市教育振興基本計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

「第2期津山市教育振興基本計画」(平成29年度~令和3年度)の成果と課題を鑑み、社会情勢の 変化や「津山市教育大綱」「津山市第5次総合計画(平成28年度~令和7年度)」を踏まえて、今後 の本市教育が目指すべき方向や計画期間中に取り組むべき具体的な施策、目標とする指標等を明らかにし、 学校・家庭・地域が一体となって取り組めるよう、市民や保護者にもわかりやすい計画を策定します。

2 計画の範囲

令和2年4月からの機構改革により、スポーツ、文化部門などが市長部局へ移管となり、各部局において推 進計画等を定め取り組んでいることから、本計画 は、教育委員会が所掌し施策を実施している幼児教育、学 校教育、及び家庭・地域教育を対象範囲とします。

Ⅱ 教育の現状と課題

1 確かな学力の育成

学習定着の状況は小学校3年生から5年生については、改善傾向にありますが、それ以上の学年の標準スコ ア(全国の平均正答率を50としたときの換算値)は全国を下回っている状況です。

全国学力・学習状況調査(標準スコア)

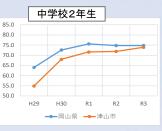




2 自己肯定感の醸成 (意欲・自信等の向上など)

学力・学習状況調査での「自分には、 よいところがあると思う」の設問に肯定的 な回答をした割合については、上昇傾向 にはあるものの、岡山県平均よりは低い 状況です。





3 人間関係構築力・規範意識等の向上

規範意識の向上と郷土愛の育成のため、様々な体験や経験ができる環境を整えていく必要があります。また 不登校対策についての対応を行ってきましたが、不登校出現率が小中学校ともに高い状態が続いています。

4 学校教育の質の向上に向けたICTの活用

ICTを最適に組み合わせた授業改善の方法を研究するとともに、教育データを分析・利活用できる環境整備 等を進め、すべての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現していく必要があります。

5 郷土愛と国際性を育む教育

郷土の素晴らしさを世界に発信し、郷土の発展に寄与できる人材を育成するために、国際交流や英語学習等 を充実させることで、優れた国際感覚や異なる文化を理解し尊重する態度を身に付けることが重要です。

Ⅲ 計画期間に取り組む施策の基本的方向性

これからの社会は、グローバル化やデジタル技術の進展など、変化の激しい予測困難な時代と言われています。

また、子どもたちを取り巻く環境は、いじめや不登校の増加、学力や貧困の問題など、様々な課題が山積する中、教育の果たす役 割はますます重要となってきています。

このように急激に変化する時代の中で、子どもたち一人ひとりが課題を見出し、主体的に考え、多様な人々と協働しながら課題 解決することができる資質能力を育成することが求められています。

そして、①自らの将来(進路)を自らの力で切り拓く人材、②ふるさとに誇りと愛着をもち、自己肯定感を高め、地域や社会に 貢献できる人材を、学校・家庭・地域が一体となって育成することが重要と考えます。

本計画では、基本的方向性を、「教育活動の推進・充実」と「教育環境の改善・充実」の2本柱とし、これからの社会構造の変化 を見据え、今後の明るい津山の未来を創るための本市教育全体の「道しるべ」として、3つの目指す人間像を掲げています。そして、 目指す人間像ごとに基本目標を設定し、目標を達成するための具体的取組について示しています。



教育活動の推進・充実

基本目標 ア. 主体的に学ぶ意欲の育成

質の高い幼児教育、個別最適な学びと協働的な学びのため のICT教育、ICTを活用した先進的授業の研究、キャリ ア教育の推進、学び直しの機会の提供 など

基本目標 イ. 確かな学力の向上

保幼ご小の連携、教育データを活用した授業改善、「学びの サイクル」の推進、 読解力・英語力の向上 など

基本目標 ウ. 健やかな心と体の育成

子育て支援の充実、リズムジャンプ等を取り入れた体力の向 上、食育の推進、長期欠席・不登校への対策、児童生徒の 相談・支援体制の充実 など

【本市の教育が目指す人間像】

自立

自立して、自己の将来を切り 拓き、たくましく生きていけるひと

つながり

広い視野で人や地域とつながり、 互いを認め合って生きていけるひと

鄉土愛

ふるさとを愛し、津山人としての 誇りを持って生きていけるひと

学び大切にする心の育成

子ども観光ガイド育成塾、地域人材や郷土施設を活用した 授業「つやま郷土学」の推進、異文化への理解と国際感覚 の育成 など

良好な教育環境の維持・向上

基本目標 イ. ふるさと津山に誇りと愛着をもち、 社会に貢献できる人の育成

中学生の地元企業体験、つやま元気大賞表彰の推進 など

基本目標 ア、自他を尊重する心の育成

グローバル化への対応、多様性を認め合う心の育成、いじめ・ 暴力行為への対策

基本目標 イ、人や地域との豊かな人間関係の構築

幼児教育における地域との交流活動推進、コミュニティ・スクー ル、地域学校協働活動による社会性の育成、家庭教育の啓 発、青少年の健全育成 など

基本目標 ウ. 道徳性や規範意識の醸成

教科道徳の充実、スマートフォン・インターネット対策 など

基本目標 ア. 津山の歴史・伝統・文化などを

I C T 環境整備、小中学校の適正規模・適正配 置、学校事務の効率化、教職員の働き方改革

総合的な連携体制の構築

教育委員会活動の活性化、親(保護者) 学講座の推進 など



安全・安心な学校づくり

新型コロナ対策など環境衛生対策、学校施設の 整備、安全安心に配慮した給食の提供 など

